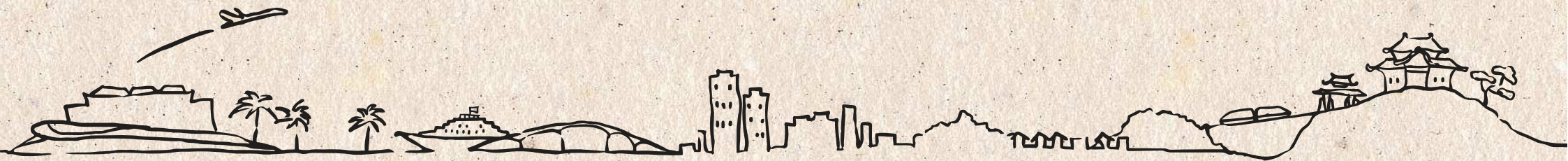


那覇市公共サイン計画

概要版

平成 26 年 3 月

那覇市都市計画部 都市デザイン室



那覇市では

おもてなしの心でつくる
想いやりのあるサイン

を目指しています





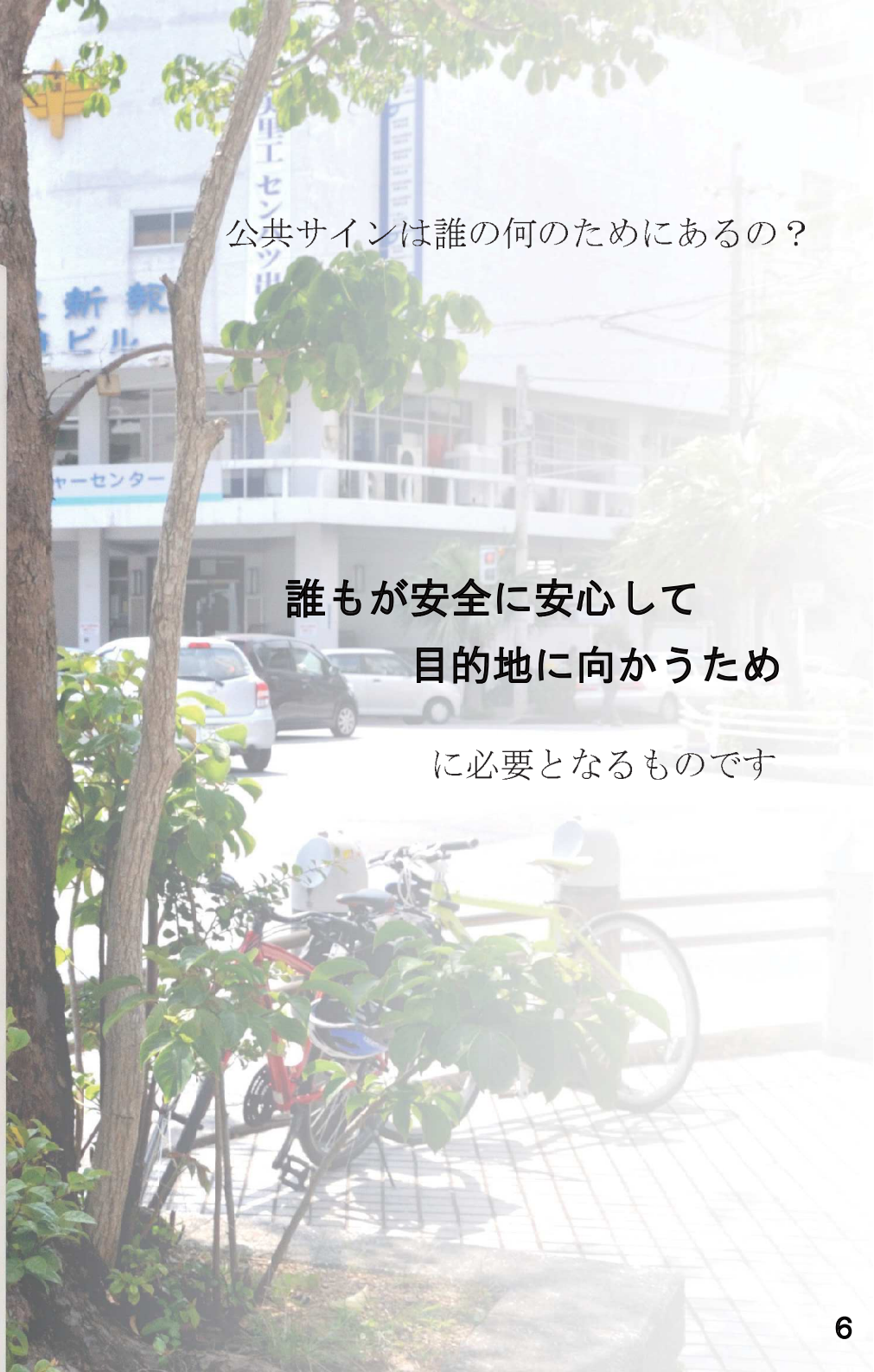
しかし・・・
管理がなされていない
統一されていない

おもてなしの心でつくる思いやりのあるサイン
になっていない現状が一部みられます



公共サインは誰の何のためにあるの？

誰もが安全に安心して
目的地に向かうため
に必要となるものです



公共サインが

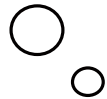
ばらばら 見えにくい
分かりにくい 使いづらい
だったら・・・



それは

おもてなしのサイン
とはなりません

誰もが分かり
やすいサインを



親しみやすい
サインを



高齢者にも
見やすいサインを



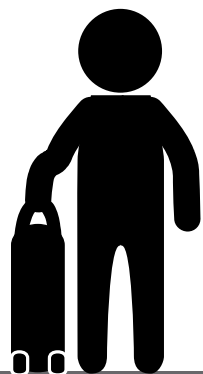
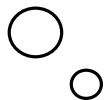
障がい者にも
便利な機能を



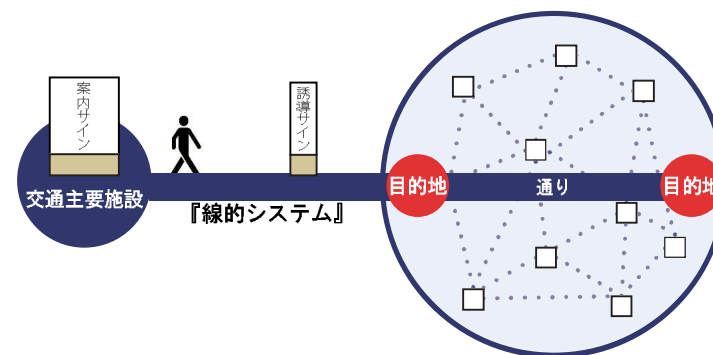
バラバラだった表示やデザインを統一しよう



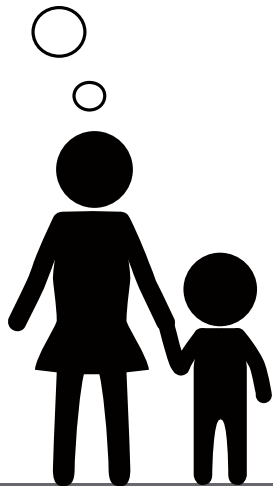
誰もが分かりやすいサインを



それぞれのサインをつなげよう



親しみやすい
サインを



■ 誰もが親しみやすいサインを提案しよう



見やすい文字を検討しよう

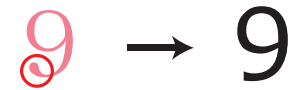
シンプルなデザインに配慮



明朝

ユニバーサル
デザイン

判別しやすく空間を確保



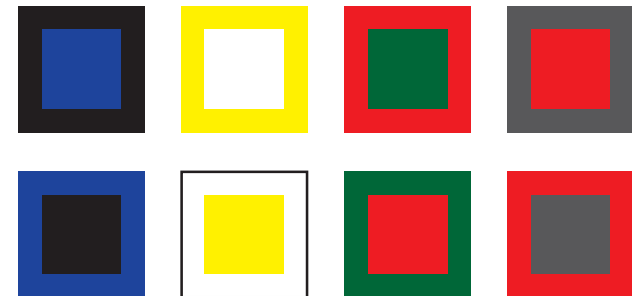
明朝

ユニバーサル
デザイン



色の組み合わせを検討しよう

【主な見づらい色の組み合わせ】



新しい技術を導入し機能を充実させよう



A R技術の活用

スマートフォンとの連携



Q Rコードの活用

障がい者にも
便利な機能を



誰もがわかりやすく

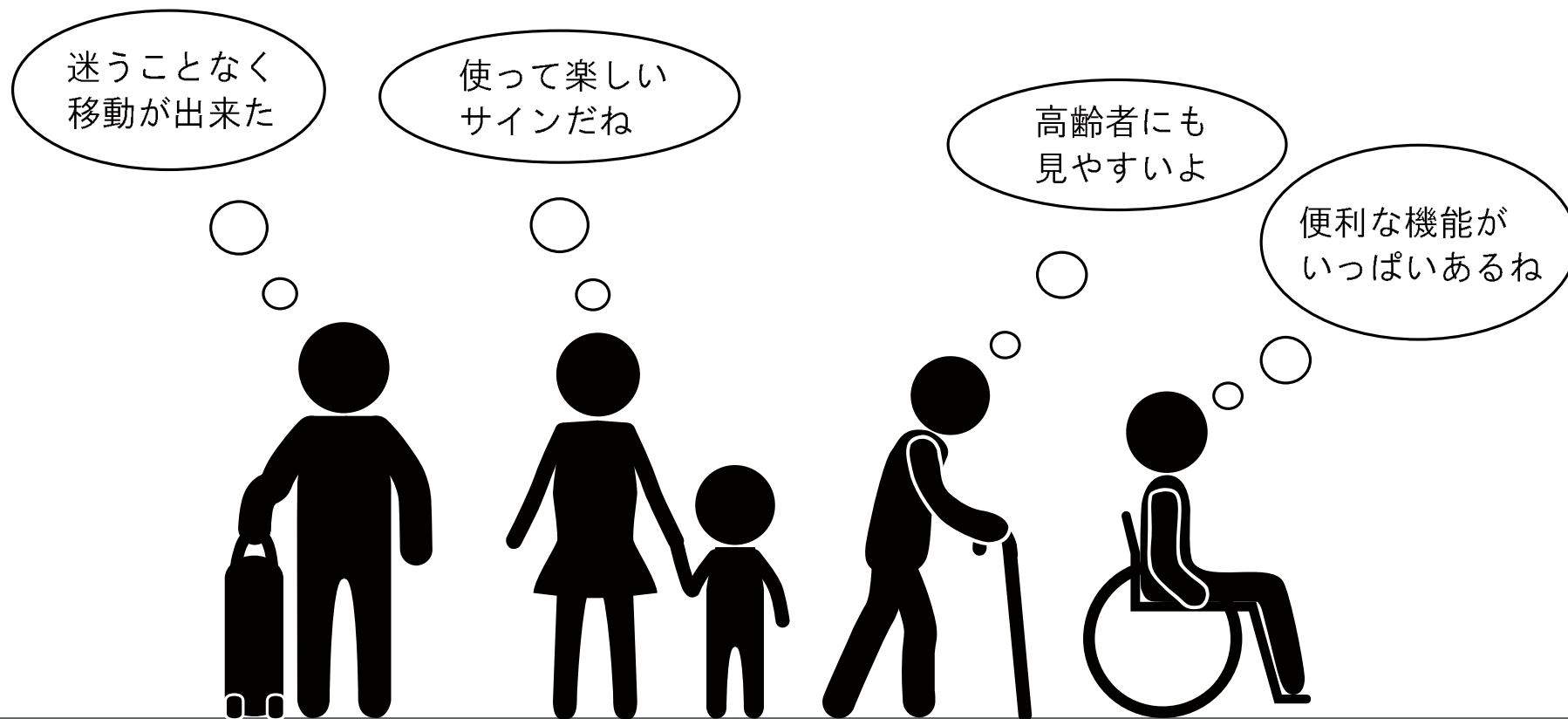
おもてなしの心でつくる
想いやりのあるサイン

を目指すため



那覇市公共サイン計画

を策定します



公共サインの基本方針

誰もが安全・安心して移動できる結の公共サイン

ユニバーサルデザインへの配慮や防災サインとの連携、目的地への円滑な誘導など、連続性のある効果的なサインの配置を心がけた、誰もが安全に安心して移動できる結の公共サインとします。

おもてなし・想いやりの心が伝わる公共サイン

観光交流都市として、国内外から多くの観光客が訪れるため、誰もが正しく理解できるよう、シンプルで統一性のあるデザインを基調とし、管理が行き届いた、おもてなし・想いやりの心が伝わる公共サインとします。

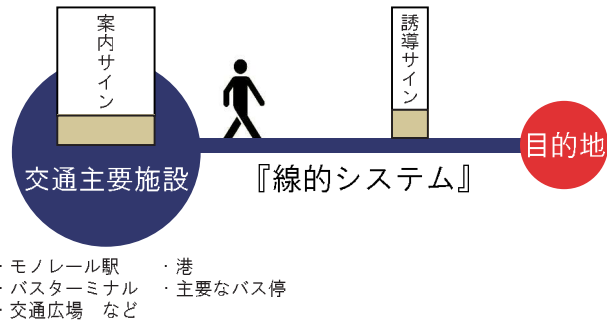
那覇の景観と調和した公共サイン

公共サインは、都市のイメージを構成する景観要素の一つであることから、那覇市景観計画との整合をはかり、沖縄らしい素材の活用など、地域の特性を考慮した公共サインとします。



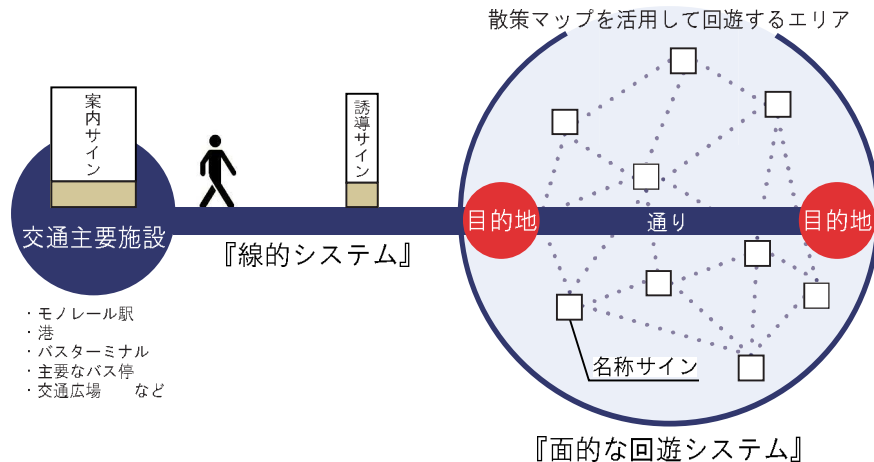
線のシステムの考え方

交通主要施設から目的地（著名地点）を最も近いルートで直接結ぶ「線のシステム」により、誰もが安心して目的地（著名地点）へ移動するための案内サイン、誘導サインを設置します。



面的システムの考え方

交通主要施設から目的地への移動だけでなく、目的地から目的地への移動や、目的地周辺に観光資源が数多く点在するなど、面的に回遊できるエリアが存在します。



その他の地図ツールとの連携

このような面的に広がるエリアを案内・誘導サインで全て結ぶことは、煩雑化を招き、現実的にも困難となることが予想されます。

そこで、Wi-Fi 事業や観光マップ等のソフト的手法による施策との連携をとることで、面的なエリアの移動を推進していきたいと考えます。

▶ 例えば

- 観光拠点周辺の散策マップの作成
- それぞれの用途に対応した散策マップの作成
- スマートフォンなどの電子機器を使用した散策マップの配信 など



基本言語表記

ユニバーサルデザインの観点から日本語と英語の2種類による表記を基本とし、必要に応じて、多言語表記の活用を検討します。

多言語表記

多言語表記をする際は、沖縄県への外国人観光客の入域状況から、英語以外に中国語（簡体字・繁体字）、韓国語を基本とします。

4ヵ国語を付記する施設等については、モノレール駅や著名地点、主な公共施設に関してのみの表示としますが、設置者が必要に応じて検討するものとします。

表記書体

「誰もが安全・安心して移動できるサイン」の基本方針に基づき、ユニバーサルデザインフォント（UD Font : Universal Design Font）や、ゴシック系等のシンプルで判別しやすい文字を基本とします。

シンプルなデザインに配慮



明朝

ユニバーサル
デザイン

判別しやすく空間を確保



明朝

ユニバーサル
デザイン

ただし、首里地域のような歴史的な空間を醸し出す地域や賑わいのある地域等については、その地域に合ったフォントの使用を必要に応じて検討するものとします。

施設名称等の英文表記は、固有名詞はローマ字で、普通名詞は英語により表記します。

ローマ字表記法は、「ヘボン式表記」を基本とします。

ピクトグラム

外国人や難しい文字のわからない子供に対しては、見ただけで、容易に理解できるピクトグラム（絵文字）を使用し対応します。

ピクトグラムについては、「著名地点道路案内標識マニュアル（案）」（沖縄総合事務局）に示されている「道路標準ピクトグラム」を基本とします。

「道路標準ピクトグラム」に記載されていないものについては、「標準案内用図記号のピクトグラム」を使用します。

ピクトグラムのない施設については、アイキャッチャー・マークとしてドットマーク（■）を使用します。

視認性が高くなるよう白抜き表示を基本とします。

【著名地点道路案内標識マニュアル（案）「道路標準ピクトグラム」（一部抜粋）】



【標準案内用図記号のピクトグラム（一部抜粋）】

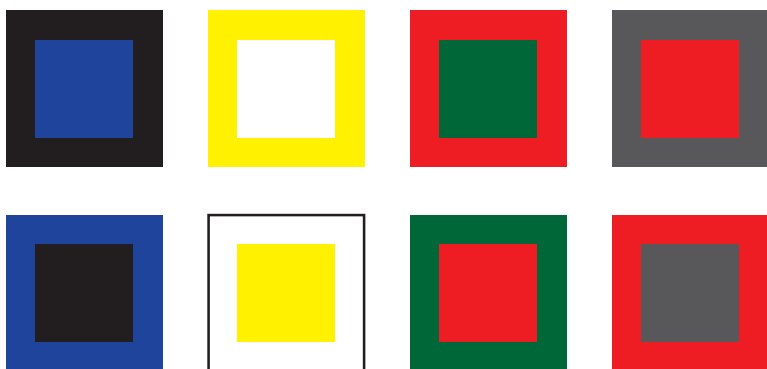


■ 色彩

色彩については、図と地のコントラストを強くするなど視認性を高めるとともに、高齢者や色弱者、視覚障がい者に配慮することが重要です。

そのことから、周辺の色彩や空間構成等を考慮し、サインがあることが分かりやすく、かつ、周辺の景観を阻害しないような色彩とします。

【参考：主な見づらい色の組み合わせ】



「青と黒」、「黄と白」、「緑と赤」、「灰と赤」などの組み合わせは、見づらい色となります。

色弱者の見え方は、赤が茶に見えたり、青が緑に見えたりするなど、色の組み合わせ次第では区別が付けにくいことが考えられます。そのことから、視認性の高い色彩の組み合わせに配慮することが重要です。

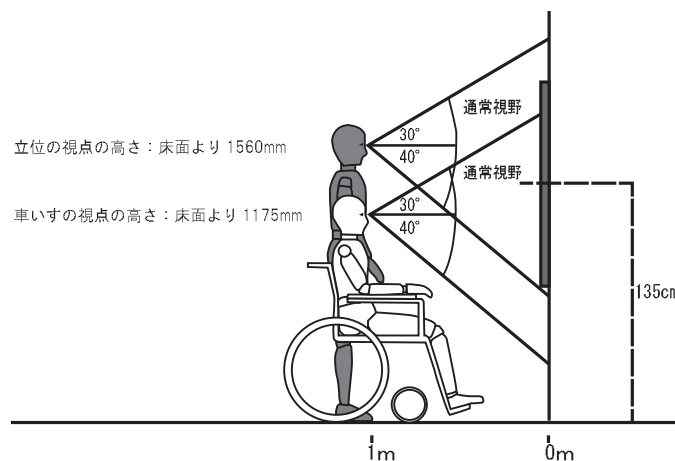
案内サイン基準 (本編 P23)

■ サインの表示位置について

近くから視認するサインの掲出高さの考え方について、立位の利用者と車椅子使用者の視点の中間の高さは約 135 cm となっています。

地図標識の中心の高さを 135 cm とした場合、車椅子使用者は地図標識の上部の判読が困難であり、立位と車椅子の通常視野の中心の中間の高さは、視野の中間点よりもやや低い位置にあります。

このことから、地図標識の中心の高さは 125 cm 程度が望ましいと考えられます。また、ユニバーサルデザインの観点から、車椅子利用者が視認しやすい形状の案内サインの検討を行います。



■ 表示情報について

案内サインに示す地図上での表示情報基準においては、各行政機関や部署毎で求められる情報が違うことから、全ての情報を統一することは現実的に難しい状況となっています。

そこで、沖縄の地理的特性を基本とし、建替えの可能性の低い施設を表記した『ベースマップ』を作成し、基礎データの統一を図る必要があると考えます。

実際に活用する際には、使用する用途にあった情報を追加していくものとします。

地図上の色彩について

主要地図は、道路を白抜きにして敷地をベージュなどの色で構成すると区域が読み分けしやすくなります。ただし、敷地の色が薄すぎると色弱者には識別できなくなり、濃すぎると文字等が読みづらくなるので、敷地は明度7～8程度の色面で統一することとします。

【ベースとなる地図上の色彩】

項目	色見本	CMYKの値	
ベース（敷地）		C: 0% M: 4% Y: 7% K: 17%	
水域		C: 40% M: 0% Y: 0% K: 0%	
境界線（市町村界）		C: 100% M: 100% Y: 10% K: 100%	
道路		C: 0% M: 0% Y: 0% K: 0%	
軍用地		C: 30% M: 50% Y: 55% K: 0%	
公園・霊園	敷地		C: 30% M: 0% Y: 60% K: 0%
	園路		C: 16% M: 0% Y: 24% K: 0%
建物		C: 1% M: 6% Y: 9% K: 40%	

防災サインとの連携について

津波災害に対し、緊急時の避難に関する行動を安全かつ迅速に行えるよう、「津波防災ガイドライン（素案）」で示されている津波防災サイン（津波避難ビル・津波避難場所）を表示（日本語、英語、ピクトグラム）するものとします。

避難に関するピクトグラムについては、JIS規格で位置づけられている「緑色」で表示するものとします。



【津波避難場所】

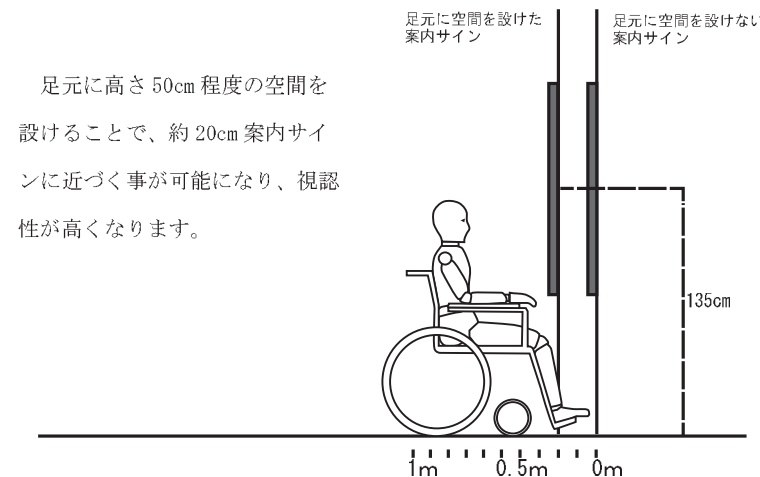


【津波避難ビル】

ユニバーサルデザインとしての配慮について

車椅子利用者の視認性を良くするため、案内サインの足元に高さ50cm程度の空間を設けるものとします。

また、視覚障がい者に対して案内サインの場所を知らせるため音サインや音声案内の設置を検討するものとします。



足元に高さ50cm程度の空間を設けることで、約20cm案内サインに近づく事が可能になり、視認性が高くなります。

案内サインの前に障害物を置くことを防止するため、カラー舗装など周辺の歩道と異なった舗装を検討するものとします。



カラー舗装や車椅子のピクトグラム（障がいのある人が使える設備）などを表示することで、案内サインの前に障害物を置くことを防ぐことが想定されます。

視覚障がい者が現在地や方角などが理解しやすいよう、点字案内を設けることや必要に応じ、音声で案内する装置を設けることを検討します。

■ 文字・ピクトグラムサイズについて

案内サインの文字の高さについては、「日本語 5mm以上、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語に関しては4mm以上」を基本とします。

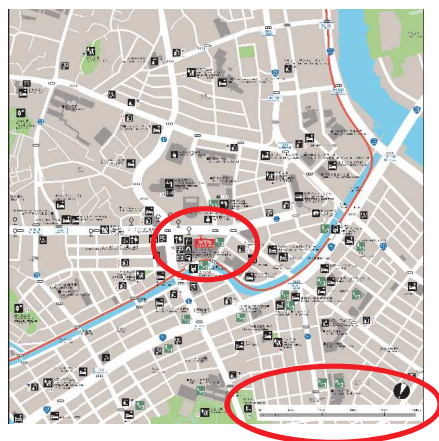
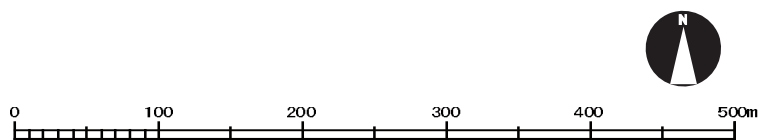
また、表示内容の見やすさに配慮し、表示施設により文字高を変えて表示するものとします。

ピクトグラムの大きさについては、12mmを基本としますが、津波防災サインのピクトグラムについては、約16.5mmを基本とします。

■ 方位・スケール・現在地について

案内サインに表示する地図には、方位記号を表示するものとします。方位記号は、北の方角を指し示すわかりやすいデザインとします。

方位及びスケールの位置は、視認性を高くするため、地図の右下に配置するものとします。



現在地は、方向者が向いている方向を考慮した現在地の表示が望ましいことから、サインと向かい合った時に、上を前方として表示します。

■ QRコードについて

スマートフォンなどの電子機器を使用し、地図案内やルート検索、周辺の施設情報が得られるよう、案内サインにQRコードなどの表示を検討するものとします。



■ 誘導サイン基準 (本編P34)

■ 文字のサイズについて

誘導サインの文字の高さについては、約10m先から視認可能な大きさにするため、日本語 40mm以上、英語 30mm以上の大きさを基本としますが、文字数によっては、大きさを必要に応じて検討するものとします。

また、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語に関しては、英語よりも文字高を抑え、メリハリをつけ視認性の低下を抑えます。

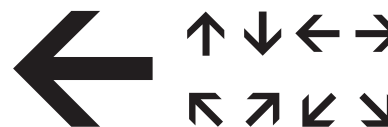
■ 矢印について

移動方向を指示する「矢印」は、「標準案内用図記号のピクトグラム」を使用するものとし、矢印のサイズについては、視認性を高くするため、矢印が向いている方向の高さを「日本語文字高 40mm 以上」の約2倍の高さ「70mm 以上」を基本とします。

指示方向が折れた矢印については、原則として使用しないこととします。

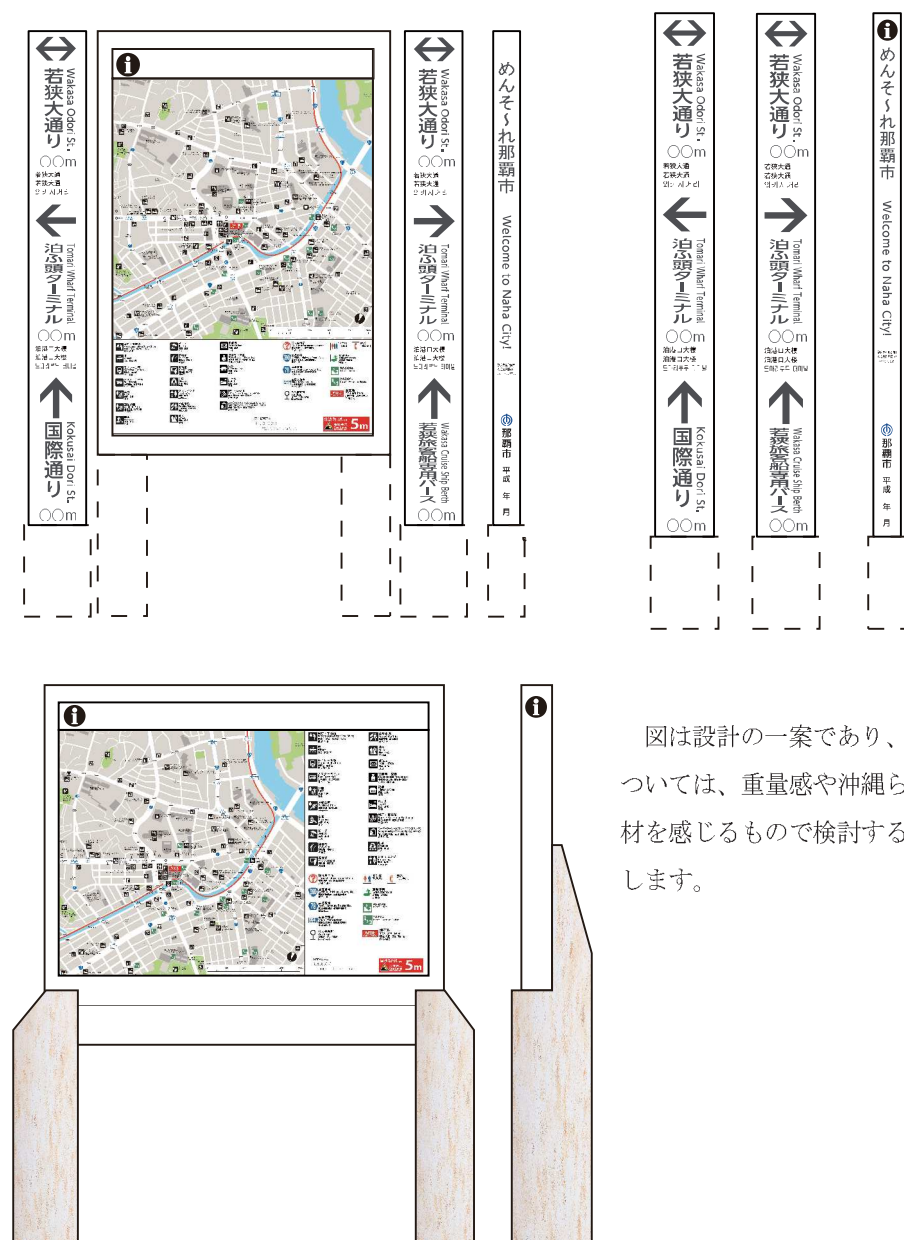
【使用する矢印の向き】

【原則使用しない矢印】



案内サイン・誘導サイン設計（案）（本編 P36）

デザイン基準、案内サイン基準、誘導サイン基準の考え方をもとに、案内サイン及び誘導サインの参考設計図（案）を示します。



図は設計の一案であり、脚部については、重量感や沖縄らしい素材を感じるもので検討するものとします。

維持管理（本編 P53）

公共サインの役割は「目的地への円滑な移動」を基本とし、利用者にとって分かりやすく、安全に安心して移動ができるためのものです。そのため、設置者による、管理と定期的なメンテナンスが必要となります。

■ サインの本体基本構造

- 情報の更新・変更、また外的要因によるサイン本体の破損、損傷などを想定し、サイン本体を構成する部位をユニット化し、修理時のコスト低減を図ります。
- 材質、装飾素材には耐久性、汎用性のある素材の組み合わせ、選定をし、経年変化に対応できるサイン本体の仕様とします。
- 老朽化による劣化や掲載情報が古くならないよう定期的なメンテナンスの実施が望まれます。

■ 点検及び更新

- 設置者は、公共サイン台帳を活用し、新設や廃止、表示内容の変更など台帳への記載内容についても更新することが望まれます。
- 設置者は、設置されたサインがその機能を保持し、景観と安全性を維持するために定期的な点検に努めます。
- 設置者は、案内サインに示している地図のベースとなる図面データの更新を定期的に管理し、更新に努めます。
- 対象施設の名称の変更や移転、道路の新設などの際には、すみやかに表示内容の整合を図るため、設置者は、表示内容等の修正等に努めます。
- 設置者は、地域住民や周辺事業者等から維持管理に関する情報を得られるように、公共サイン本体に管理番号や管理主体、連絡先等を記載します。

誰もが安全に安心して移動できる

ユニバーサルデザインに配慮しましょう

シンプルで統一性のあるデザインに配慮しましょう

点検や更新など定期的な維持管理に努めましょう

沖縄らしい素材を活用しましょう

那覇市都市計画部 都市デザイン室

